

全国制覇への道

―県立山田高校ボート部の軌跡―



全国高校選抜大会ボート競技が3月22日～24日に静岡県浜松市天竜ボート場で開かれ、男子シングルスカルで県立山田高校（関川繁雄校長・生徒201人）の山根慶大くんが優勝しました。同大会のボート競技で県勢が優勝したのは初めてのことです。

県勢初の快挙

県勢初の快挙を遂げた山根くん。距離2000メートルにもおよぶ大会のボート競技男子シングルスカルには、全国から総勢24人が出場しました。山根くんは予選2組目に出場。4組で行われた予選をトップ通過。迎えた準決勝。今大会でのトップタイム7分19秒15を叩き出し勢いに乗ります。山根くんは準決勝までのレースで手応えを感じていたそうです。

冬場、19歳以下の全日本選抜の合宿に参加。強豪選手が集う高いレベルの中で、体力面だけではなく技術面の向上を目指しました。ファイナルという水の中へ入れたオールを最後に押し出す動作。つらい中でも最後まで押し切るという動作を徹底的に体に刻み込みました。

決勝前日。同校ボート部の鎌野貴広監督と決勝の組み立てを話し合いました。2人が考えている勝負をかけるポイントは一一致。それは持ち味である爆発力を生かした後半での追い上げを意識したレース展開でした。



スパートをかける山根くん

姉・由緒さんの背中

山根くんがボート競技を始めたように思ったのは中学生のとき。きっかけは姉・由緒さんの影響でした。由緒さんは平成21年の同大会女子シングルスカルで県勢初の表彰台となる準優勝に輝きました。「どんな練習をすれば強くなれるのか。全国で勝つ

た時の気持ちはどれほどのものなんだろうか」と由絹さんの背中を見てきた山根くん。

高校は鎌野監督の師事を仰ぐため山田高校に進学しました。練習はとてもハードなものでした。鎌野監督の檄が飛ぶ中、泣いてしまいそうになる日も。それでも「いつか姉を超える」ことを目標に必死に練習に食らいつきました。

金メダルを監督に

今大会では、目標が2つありました。一つは同学年で準優勝を果

たした由絹さんを超えること。そしてもう一つは鎌野監督にメダルをあげることでした。

震災により鎌野監督の実家は津波で流出。選手時代の栄光の証であったメダルなども全て無くなってしまいました。「これまでの恩返しとして、津波で無くなってしまった金メダルをあげたい」と心に決めました。

決勝の舞台

4人で争われる決勝戦。部員や監督の見守る中、レースがスタートしました。最初の500回は、4位で通過。前日、4位通過は予想されていましたが、鎌野監督は「4位でも前を追うな」と指示。山根くんは冷静にレースを分析していました。

レースも終盤に差し掛かるころ、山根くんは相手を追い越すタイミングをうかがうと、1700回付近で一気に勝負を仕掛けました。冬場に強化した後半での爆発力。大きなストロークでぐんぐんと前に進みます。一本、一本と相手に近づいていくのを感じました。

最高の結果

結果は圧勝——。夕

イムは7分26秒45と、2位に3秒差をつけての堂々1位。「勝った瞬間はうれしすぎて叫びました。これで姉を超えることができたと思いました」と山根くん。すぐに結果を由絹さんに伝え「やったじゃん。優勝はすごい」と祝福の言葉をもらいました。由絹さんの背中を追いつつ、同じ学年で初めて超えられた全国制覇という最高の結果に笑みがこぼれました。

山根くんの次なる目標は、6月に熊本県で行われる19歳以下代表選手選考を兼ねた第11回全日本ジュニアボート選手権大会で勝ち、世界選手権に出場すること。「これまでたくさん支援をしてくれた山田町の皆さんにいいニュースを届けたい」と力強く話しました。



優勝を喜ぶ山根くんと鎌野監督

山田湾での

再出発

4月12日、2年1カ月ぶりに再開する山田高校ボート部艇庫の艇庫開きが行われました。新しく並べられたボートを前に生徒らは喜びを隠しきれません。

あの日、津波は容赦なく艇庫を襲い、22艇のボートや用具は流出。震災以降、陸上をメインとしたトレーニングへと変更せざるを得ませんでした。平日は、器具を用いたトレーニングや走り込み、筋力トレーニングを行い、土日は花巻市の田瀬湖での合宿を行いました。しかし、冬場は湖も凍ってしまったため、陸上での地道な練習をひたすら繰り返す毎日でした。

その努力が実を結び昨年は高校総体で男子舵手付きクオドルプルで6位入賞など、数々の好成績を残しました。「水上での練習時間が限られていたからこそ、生徒たちは水の上にいる時間を大切にしていました。水の上での集中力は目を見張るものがあり、その生徒たちの頑張りが結果に結びついたものだと思います」と鎌野監督は振り返ります。

現在の3年生は入学前に震災があったため海での練習は初め



県立山田高校ボート部の皆さん

となりです。主将の山根くんは「山田湾で乗れることの喜びをかみしめ、練習を頑張りたい」と話します。鎌野監督は「これまで支援していただいた皆さんへの感謝を忘れません。生徒たちもその思いを胸に頑張ります。町民の皆さんには生徒たちの頑張りを温かく見守っていただきたいとお願い申し上げます」とこれまでの感謝とこれから生徒たちの活躍に期待を込めます。生徒たちは先輩たちから伝えられた伝統を背負いながら今、さらなる活躍を誓い海へと向かいます。

県立山田高校からのお願い

山田高校ボート部の山田湾での練習再開に際し、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。